

## 第2期広島市立大学塾活動報告【7月3日】

情報科学部2年

丸 照正

7月3日の市大塾は、2週に渡り広島平和記念資料館の学芸課と啓発課について話を聞いた、まとめとそれについての意見交換をしました。

実際にリニューアルした資料館を見学し、いろいろ感じたことがあった模様。展示内容は客観的に原爆の被害というものをとらえるもの、一人一人の被爆者にフォーカスしてあるものと、私たちが沖縄で意識した「想像する」ことの大切さというものを改めて確認しました。改善点があるのではという声もありました。展示品の説明が少なく理解しにくいもの、人が多かったらその説明板も見えないのでは？など課題もあるように感じました。

ゆっくりと展示を見られなかったところもあるので、何度も通うことによって違う見方も出てくるかもしれません。

啓発課については少しイメージし辛かったものの、海外での原爆展の話しや、若い世代の平和的育成、被爆者の高齢化に伴う伝承者の話など、印象に残った部分は塾生それぞれでした。

2019年に入り沖縄について学び、今度はヒロシマについて考えることのできるプログラムでした。私たちは被爆者の高齢化が進む中、被爆体験を直接聞けることのできる最後の世代です。私の祖父も被爆者ですが、今年でもう80歳です。

広島で生まれ、広島で育ち、広島で学んでいるからこそ、被爆3世であるからこそ、できることがあると思っています。何から始めればいいのかまだ整理はできていませんが、その最初の一步を踏み出せばいいと思っています。

過ちを繰り返さないために。